

ふるさと見て歩き

第117回

さん さん

金山神社(?)

【金山神社に行ってきました】

盛金地区に、以前から気になっていた神社があります。「金山神社」です。金山に興味がありますので、名前からして金山関係の神社だろうと思い、行ってみようと思っていました。先日取材に行ってきました。

場所は小字で後沢といい、久慈川にかかる下小川橋から東の山間にしばらく入ったところ。後在所川(後沢)沿いに500メートルほど入ると道の右側にありました。右(南東)から合流する急な沢が小さな滝を造っていますが、その沢の東側です。

神社は道のわきの少し高いところに道に向かって建っており、「金山神社」の奉納額(大正元年=1912)がかかっている、すぐわかりました。社殿は大きなものではなく、桁行3間、梁間2間、それに向拝(ごはい=参拝者のための庇)が付くものです。かなりの期間手入れがなされていないように見受けられました。

金山との関係が確認できるものはないかと見てみると、額に奉納の発起人などの名前が彫られており、その中に「久慈川金山社員」という肩書を持った方の名前がありました。この周辺で金山が操業されており、そこでの安全祈願のためこの神社が建てられたと考えられました。金山など鉱山での作業は危険が伴うため、神への安全祈願はどこでも行われていました。信仰には篤いものがあるのです。



▲金山神社

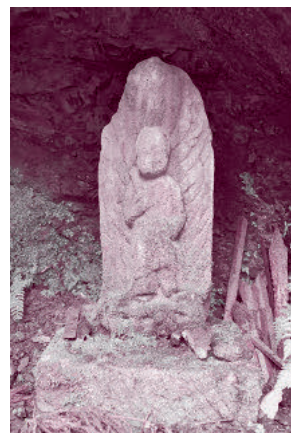
【本当はお不動様のお堂だった】

ところが、いろいろ見ていたらその先の集落の方が通りかかり、何と「これは神社ではない。お不動さんのお堂だ」と教えてくださったのです。確かに滝の脇に不動明王が祀ってありました。高さ70センチ弱の石像で、風化して顔などの詳細は分からなくなっていますが、背後に火焰を刻み、右手に宝剣を持つ姿はまさに不動明王の姿です。社殿内の奉納者芳名板によると

「清瀧山(せいりゅうざん)不動尊」というようです。石像の裏には「寛政三」(1791)年の紀年銘が刻まれていました。江戸時代後期から戦後しばらくまで、周辺住民の信仰を集めていたということになります。



▲滝と不動明王像



▲不動明王像

【山一つ南に彦沢金山があった】

ところで金山ですが、神社の付近にはなく、山一つ南側の高井釣地区にありました。金山神社の奉納額にある「久慈川金山」との関係などは確認できませんでしたが、坑口は彦沢川沿いに3か所確認できました。他に2~3か所あるそうです。「彦沢金山」です。金山神社は、彦沢金山を操業していた人たちが、どういう経緯か不明ですが、本来不動明王を祀るお堂に「金山神社」の額を掛け、信仰していた可能性があります。

後沢や高井釣地区には馬頭観音の石塔なども多くあり、山間の地にもかつては金山に限らず盛んな人の活動があったことを実感する取材でした。



▲彦沢金山の坑口

【謝 辞】今回の取材では、後在所の川野辺正一さん、高井釣の小野瀬進一さん、川野辺秀雄さんにお世話になりました。ありがとうございました。

【参考文献】山方町文化財保存研究会編『山方の石仏石塔』山方町教育委員会1999年、庚申懇話会編『日本石仏事典』雄山閣出版1975年

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111 (内線344)